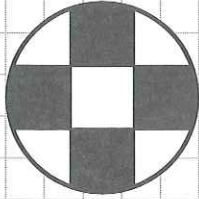


一般社団法人全日本囲碁協会機関紙



# 日本の碁

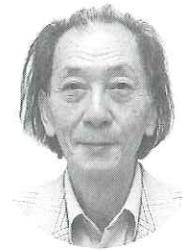
平成 26 年 7 月 14 日 発行

第 2 号

## 今後を決める

### 正会員総会

理事長 菊池康郎



これまでは理事会が主となって全日本囲碁協会の進むべき方向を考えてきました。しかしこれからは、全会員——とくに正会員全員の協議によって方向の指針を決めていかなければなりません。その時機が来ています。

正会員はこの法人の中核です。それぞれ個別の問題を抱えているにちがいありませんが、そのなかで全碁協一体となって解決できる問題も少なくないでしょう。個別の問題の共通項をあぶり出し、解決のための努力目標を定めるには、会員総会が最初の大きな一歩となるにちがいありません。

まず、情報交換。機関紙の第一

号が、共通項設定に多少とも役立つものと思いますし、公益法人取得の目標にアプローチするための考える材料ともなるでしょう。

正会員への勧誘はこれからが本番です。理事会が努力するためだけでなく、正会員の方々もできるだけ輪を広げていくことを考えてみてください。

それらのことも、正会員総会で大きな議題となるものと思われ



なお、公益法人取得のためには定款の一部を変更しなければなりません。それに関しては総会で改めて説明されることになり、他にも会員と社員との違いなど、法律上のややこしいことがさまざまです。これも、一歩一歩解決していかなければならない問題でしょう。

## 目的と事業

「定款の目的と事業は次の通りです。確認しておきましょう。」

第3条（目的） 当法人は、広範囲の年齢層に囲碁を普及し、その効用を啓発して人間形成に役立てることを目的とす。

第4条（事業） 当法人は、前条の目的を達成するために、次の事業をおこなう。

- (1) 自己開発による能力向上、視野拡大、挫折に対する耐性の修練などのための啓発事業。
- (2) レクリエーション効果による精神的身体的影響の調査とその周知事業。
- (3) 目的設定による気力増進、認知症発生抑制に関する調査研究とその周知事業。
- (4) 世代間、地域間の交流を促進する断絶解消事業。
- (5) 競技囲碁の発展を主とする団体と一線を画しながら、当法事の目的に合致する部分での連係事業。

# 理事会動向

## ◎臨時理事会

26年6月10日 新宿事務所

出席者 菊池康郎、桑原青人、相場一宏。

菊池は肺炎のため、しばらく自宅療養。本復したとのことで、理事会開催。なお、塩崎泰朗理事は、高齢と身体不調その他の事情のため、理事辞任を表明。

## 報告事項

1、会報校了(5月23日)

会報印刷完了(6月13日)

2、正会員、賛助会員、賛同会員の追加見込み確認。

3、塩崎氏の理事辞任確認。

## 決定事項

1、会報への広告は、会員にかぎり一段七千円を五千円とする。

2、内久根正会員との拡大理事会開催を検討。6月18日に決定。

3、社員総会の名称を、正会員総会に変更。賛助会員も出席することができる。

4、新会員勧誘、桑原理事に一人任ずる。可能ならば、他理事も協力する。

5、会報発送準備。封筒、切手等の用意と、宛名書きの手配。

6、公益法人取得に関し、専門家の意見を聞くことを検討。日時や場所、謝礼等についてはなおも調査。

## ◎拡大理事会

6月18日、午後4時30分

いずみ囲碁ジャパン

出席者 菊池康郎、桑原青人、相場一宏、内久根孝一。

1、内久根氏にこれまでの経緯を改めて説明。会報「日本の碁」第1号を手渡しする。

2、アマチュア本因坊戦東京大会をいずみ囲碁ジャパンで開催したことに関し、毎日新聞社と日本棋院との折衝、および決勝戦のテレビ放映を日本棋院でおこなう経緯

について説明を受ける。

3、全国各地の碁席情報を相互交換。

4、正会員総会の日時決定。

5、正会員総会の開催場所を、いずみ囲碁ジャパンの一角を利用させていただくことへの了解を得る。

6、ユークキャンへのアプローチを説明。

7、碁席入場者が身体不調となった場合の対応等について、さまざまな事例をそれぞれ紹介。

## ◎理事個人動静

相場理事

6月23、24日 原稿整理

6月26日 入稿。

## 桑原理事

6月20日 理事長と種々相談。

6月23日、広報の最終確認。発送に關して相場理事と役割分担打ち合わせ。

すぐに見つかります、良き囲碁仲間!

◆強豪トーナメント「水曜会」毎週水曜日PM5:30~8名様によるトーナメント戦(参加費3000円 賞金制)



◆腕試し真剣指導碁  
一局2000円(但し、お勝ちの時は無料)  
(例) 初段八子 二段七子 三段六子  
四段五子 五段四子 六段三子

◆インターネット対局(幽玄の間会員/タイセム会員)

03-3232-8745  
<http://www9.plala.or.jp/bohno/>  
新宿区歌舞伎町1-24-2 西武ビル6F

24時間営業(但し、日曜夜10時閉店/月曜朝11時開店)  
いつでも打てます

◆初級者いつでもお打ちになれます

◆女性、学生、大歓迎(席料割引)

◆毎月リーグ戦あり(参加費1000円)

◆土日、祝日は先着8名様によるトーナメント戦あり(参加費無料)

◆座敷もあります(家庭料理50品目以上/ドリンク類種々あります)

24時間碁が打てます  
新 秀 策

# 正社員総会予定案

社員総会の名称を、正社員総会に変更します。というのは、現在

一般社会法人全日本囲碁協会の社員として、正式に届け出ているのは山口晋、桑原青人の2名のみ。設立時には2名以上の社員が必要であり、法人の認可を急いだため最少限の人数を届けていたからです。

しかし、3月25日の認可以後、会員数も増大し、名称を変えるべきだという結論が理事会で決定されました。五月末現在で正会員は12名、賛助会員は3名ですが、7月に予定されている正社員総会までには、さらに会員数が増大する可能性があります。もちろん、賛助会員の出席は歓迎しますが、いまのところ賛助会員の出席は見送らせていただくこととなります。予定された式次第と、議題は次の通りです。

## 記

### 第1回正社員総会

日時 7月14日 午後3時

場所 いずみ囲碁ジャパン

東京駅八重洲南口

〇三(五)〇二六〇九三

## 式次第

1、理事長挨拶

2、設立経過報告

3、議長および書記選出

## 議題

a、理事退任の件

b、新理事選任

c、定款の目的および事業について再検討

d、公益法人取得についての検討

e、会員勧誘方法についての検討

f、会員の特典について、いまのままでは不十分ではないか、協会としてさらにサービスを考えるべきでないか。さまざま提案を期待。

g、個々人の囲碁に治する姿勢に関して、どのように助言すべきか、放置すべきかについての検討。

h、その他。

以上ですが、そのあとに懇親会が予定されています。さまざまな情報を交換し、親睦を深めるためにも、ぜひ御出席ください。

また、現実にはほとほとどの部数だったようです。実際に利用する部数は、編集用

に約十部。正会員(各五部ずつ)および勧誘用には約二百部(送付および手渡し)、新聞社関係(送付)に約百部、テレビ、企画会社関係(送付)に約五十部、周知用(送付)に約四十部です。

送付作業にあたっては、封筒や切手の用意のほか、宛名書きがあり、第一号は桑原(会員関係)、相場が担当しました。送料は第三种郵便の認可が取れないうちはけっこう高額であり、その認可は二千部以上でなければ下りないので、いまのうちは見送るよりありません。

また、現実には送付作業をおこなってみると相当な時間と労力を要しました。第2号からは作業力を緩和する方法をなにか考えなければならぬでしょう。乗りかけた舟といいながら、なにしろ毎月のことですから……。

会報の発送

会報第1号は五百部印刷しました。いくぶん多いかな、という疑問もありましたが、初号でもあるし、全基協を多方面にPRするためにも……、とその部数にしまし

また、現実にはほとほとどの部数だったようです。実際に利用する部数は、編集用

に約十部。正会員(各五部ずつ)および勧誘用には約二百部(送付および手渡し)、新聞社関係(送付)に約百部、テレビ、企画会社関係(送付)に約五十部、周知用(送付)に約四十部です。

# 会員名簿

6月末現在、正式に加入を表明している正会員、賛助会員、賛同会員の名簿です。順不同。

## 正会員

菊池 康郎【緑星囲碁学園】  
(全日本囲碁協会代表理事)

東京都中野区

03(3360)1555

塩崎 泰朗【東山囲碁サロン】  
全日本囲碁協会監事

東京都目黒区

03(3713)4800

山口 晋【前下北沢囲碁セン  
ターオナー】

全日本囲碁協会理事

東京都世田谷区

03(3429)8257

相場 一宏

(全日本囲碁協会理事、囲碁ラ  
イター協会名誉会長・囲碁

史会運営委員・天元戦新人  
王戦観戦記者)

茨城県つくばみらい市

0297(58)8254

桑原 青人【碁席秀策】  
全日本囲碁協会理事

東京都新宿区

03(3232)8745

平田 信子【平田碁会所】

埼玉県蕨市

048(431)8496

藤崎三佐雄【津田沼囲碁クラブ】

千葉県習志野市

0474(75)5255

須崎 善治【丈和】  
東京都東村山市

0423(95)4635

堤 加容子【燦々】  
東京都国立市

0425(76)5591

内久根孝一【いずみ囲碁ジャパン】  
東京都中央区

03(5202)6093

滝沢 千晴【新宿囲碁センター】  
(NHK学園・囲碁学苑講師)

東京都新宿区

03(3349)4977

広瀬 恵一【囲碁サロン欄柯】  
東京都目黒区

03(3715)8610

牛山 修【囲碁サロン道玄坂】  
東京都渋谷区

03(3780)3691

及川 尚【囲碁サロン絆】  
東京都杉並区

03(6768)1511

出口 雄司【緑星学園尾山台教室】  
東京都世田谷区

03(5706)2768

大沢 完治【囲碁サロンさいたま】  
(NPO日本青少年囲碁協会理事、  
NPO埼玉県青少年囲碁協会理事)

さいたま市中央区

048(857)1518

## 賛同会員

碁柳 会(松本昭男)

飯塚 あい

香山由志子

小林 千鶴

青木 勝

今井 速人

駒沢大学囲碁部OB会

三井 一矢

## ◎会員の特典

・正会員

情報交換会参加

親睦会参加

賛同会員(個人、グループ研

究会、学校囲碁サークル、

成人学校、老人ホーム、病院、

養護施設、および各種任意

団体)への囲碁企画仲介

囲碁グッズ販売、販売設備の

製作、および仲介

会報に意見発表

・賛助会員

情報交換会・親睦会への参加、

賛同会員との連絡仲介、会報

に意見発表

## 賛助会員

野口 雅人

内野 真理

坊野 恭子

二火会(吉田慎次郎)

# 田原中野止

三井一矢

## 初代本因坊(一)

これから本因坊算砂のことについて書こうと思う。算砂といえ、初代本因坊、江戸時代囲碁家元の元祖といったイメージがあるだろう。だがそれ以外のことはどうだろうか。どのような人物で、どのようなことをしたのだろうか。

まず、本因坊とは何か、今回は本因坊発祥の地である寂光寺について述べる。寂光寺は京都十六本山のひとつで、日蓮大聖人滅後二九六年後の天正六年(一五七八)に久遠院日淵上人により京都近衛町に創建されたが、天正十八年には豊臣秀吉による聚楽第建築のため、寺町通竹屋町(現在の久遠院前町)に移り、境内に久成坊・実教院・実成坊・詮量院・本成坊・玄立坊・本因坊の七塔頭を建て、布教活動をおこなっていた。

宝永五年(一七〇八)には京都の三大大火のひとつ「宝永の大火」に

より寂光寺は焼失。これにより現在の東山仁王門西入に移転した。

本因坊とは寂光寺の塔頭のついでた。その本因坊に住んでいたのが本行院日海であり、後の本因坊算砂である。現代ある本因坊戦はこの本因坊から来ている。

算砂は永禄二年(一五五九)五月、京都長者町で生まれた。本姓は加納、幼名は與三郎といった。

與三郎は八歳のとき、後に寂光寺の開祖となった久遠院日淵の門に入った(日蓮宗)。翌年剃髪して本行院日海と名乗った。

この日淵と日海とは叔父甥の関係である『本山寂光寺誌』に記されている。実はこの日淵が初代本因坊ではないかと現在では考えられている。といっても囲碁とは関係がない。

算砂には仙也という囲碁の師がいる。この仙也については堺の住人であること、碁がかなり打てる息子仙角がいたということ以外、生没年などもわかっていない。現在では棋譜ものこっていない。仙也の名は豊臣秀吉が碁打衆に授けた朱印状に出てくる。

天正十六年(一五八八)、秀吉は碁打ちを集めて囲碁大会を開き、算砂が優勝した。そのとき朱印状をあたえたのである。

そこには、他のものはすべて本因坊に定先以下を命ずるというものだった。しかし、仙也だけは本因坊の師ということで互先とするとも書かれている。

これは算砂の伝説の一つであるが信憑性は低い。この他にも本能寺三コウ伝説があるが、紙数の関係で次回以降に譲る。

碁打ちとしての算砂は知られていないが、算砂は僧侶である。僧侶としての算砂はどうであったか。

算砂は寂光寺二世住職だが、いづごろ日淵から譲られたかははっきりしない。ある

いは天正十八年(一五九〇)、寂光寺を再建したときかとも思われる。

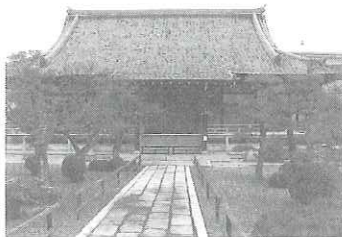
寂光寺の史料には、日海が文禄元

年(一五九二)権大僧都となり、慶長十七年(一六二二)法印に叙せられたとある。僧侶として位人臣をきわめた。

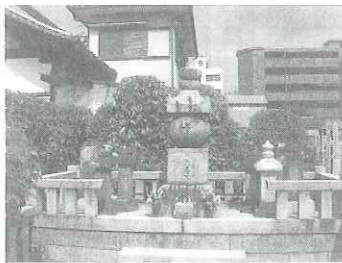
寂光寺の所蔵品には算砂に関するものがあり、肖像画をはじめ、碁盤や額がある。これらは寂光寺を訪れ、寺の方に声をかければ拝見させていただくことができる。

また、寂光寺本堂脇には墓地があり、そこには本因坊算砂をはじめ歴代本因坊の墓が並んでいる。

今回は第一回ということで算砂の経歴や寂光寺について述べさせていたのだが、これから資料に基づき、算砂の生きた時代や人物たちにも触れていこうと思う。



現在の寂光寺



中央が算砂の墓、下部に算砂日海上人とある。

## 囲碁の医学的効用

東京都立神経病院 飯塚 あい



前回、囲碁が認知症予防や高齢者の健康増進に役立つという、『囲碁療法』の可能性についてお話ししました。今回、その取り組みの二環として企画したイベントについてご紹介させていただきます。

◇ 二〇二四年三月十五日、東京都板橋区にある東京都健康長寿医療センターという病院で、初めての囲碁と医療のコラボレーションイベントである『健康長寿囲碁まつり』を開催しました。このイベントは、病院の患者さんとそのご家族、地域住民、病院スタッフを対象に、病気を

抱えながら生きる人、今は元気でも将来に不安のある人が、新しい生きがいを持ち、自分らしい人生を歩むためのきっかけを作りたいという思いから生まれました。内容は元アマチュア本因坊である村上深さん、元院生の千葉聡子さんによる入門教室、大橋拓文六段による指導碁、囲碁と医療に関するポスター展示、故木谷実九段の息子である木谷正道さんによる音楽ライブなどで、初めての試みにも関わらず来場者〇五名、スタッフを合わせ二〇名の方にご参加いただき、大変活気溢れるイベントとなりました。参加者の方からたくさん素晴らしい感想をいただきました。現在入院中の患者さんが会場に足を運んで下さり、「毎日病気で苦しんでいましたが、久しぶりに碁を打つて楽しい時間を過ごすことができました」という感想もいただきました。また、「物忘れに不安がある、けれどどうすれば良いかわからない」という

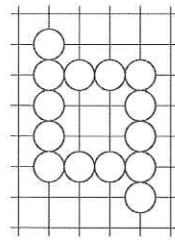
高齢の方が、囲碁という新しいゲームを始めたことで「まだ新しいことを覚えて普段使わないような脳を使うことができるのだと思って安心しました」と言ってく下さり、とても印象的でした。九十一歳の女性は「もう打つことはないと思っていましたが、久しぶりに打つてとても楽しくて、また生きがいができました」と、とても笑顔でした。参加者の方々が夢中で囲碁を打つ姿を見て、馴染みのある病院で行った甲斐があったと実感させられました。

◇ 話は変わりますが、私が現在勤めている病院でこんなエピソードがありました。全身の筋力が進行性に低下する難治性の病気であり、根本的な治療法がなく、もう治らないという告知を受け、ひどく落ちこんでいる患者さんがいました。話を聞くと、囲碁五段であり、発症前に碁会所に通っていたとのこと。ある日、病

室で対局をすることとなりました。腕の筋力が低下し、食事を摂るにも精一杯であるにも関わらず、十九路盤一局を一生懸命腕を伸ばして打ちきりました。終局時、彼はこう言いました。「夢中になって疲れるのを忘れてしまいました。楽しかったです」その顔は、笑顔でした。

◇ 健康長寿囲碁まつりでも、病棟で対局した時も、患者さんはみな笑顔でした。このように、囲碁には人を夢中にさせ、笑顔を生むパワーがあると考えます。囲碁は世代を問わず最高の生きがいとなり、身心を健康にするのに最適なゲームであると改めて実感させられました。笑顔になるとは、人生を楽しむことです。囲碁で人々の笑顔が増えることを願って、今後も活動を続けていきたいと思えます。次回、『第二回健康長寿囲碁まつり』は本年二〇月二五日に行います。皆様にも是非、足を運んでいただけたら幸いです。

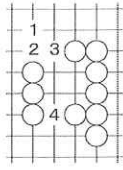
# 碁石パズル



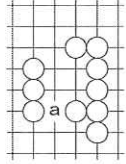
問題図

石拾いのパズルです。問題図で14個ある石を全部拾うのですが、直線にしか進めず、後戻りはできません。曲がることは可能、石と石との距離は遠くてもよし。

1図 まず、1から3まで拾ったあと、4に飛ぶのが大事です。



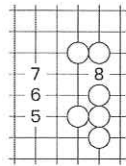
1 図



2 図

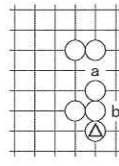
2図 いまaまで来ました。これから、右に進むか、左か。

3図 左に進んで5、6、7と進み、8に飛びます。



3 図

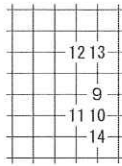
4図 いまa点。上に進むか下へ進むかです。



4 図

なお白△がbにある場合は、全部拾いきれないことを確かめてください。

5図 いったん下に進んで10か13と拾い、仕上げが14です。



5 図

問題図のようなマス形ばかりでなく、他に多くの形があり、機会を見てまた紹介しましょう。

# 囲碁川柳

この欄に囲碁川柳を提供している「碁柳会」は二十年近い歴史があり、月二回の会報は二二三号を数えます。これまで二万数千句、まだまだ広がついていく世界だそうです。六月例会から

兼題は「頭」でした。作りやすかったとみえ、佳句多数。

碁敵の憎つき頭

見ず叩く(斜凡)

「二目の頭は見ずハネよ」の応用編。二目の頭以外じゃ事件、の下句や、叩きたいときあります。という感想も。

石取られ頭も盤も

真白に(こすみ)

黒ハマ山ほど目の前真黒、とは黒の立場の下句。

詰碁見るだけで頭痛に

襲われる(良子)

碁が悪くなるど頭が

痒く成り(斜凡)

碁に茹だる金柑頭に

風薫り(蛙遊)

今月は突出した名句がなかったという一同の感想もあつたようです。

アゲハマを料理と一諸に

下げられる(華柳)

亭主負けそう女房よくやった、とか、お皿に置いちゃね、とかと茶々を入れられています。

小さい手蝶舞うように

シチヨウ追い(裕石)

童画的な句に、下句もきれいに付けられています。盤上の石みんな花となり、シチヨウアタリは赤トンボかな、等々。

## 他の組織との関係

全碁協もしいに足許が固まってきた。これからどう発展させていくか、未来へのビジョンを考えておくべき時期にさしかかっています。

目標を実現するためのさまざまな事業を創出し、発展させていかなければならないことは当然ですが、もう一つ忘れてはならないことは他の組織との関係です。

現在、囲碁関係の公益法人に日本棋院（財団）と日本ペア碁協会（財団）がありますが、その他に一般財団法人関西棋院、マスメディア（新聞社、テレビ局、出版社）の囲碁部門、囲碁関連イベント企画会社、碁盤店等や、通信教授と教室、囲碁専門雑誌などに幅広く活動が続いているユーキャンなど、多くの囲碁関連組織があり、また囲碁史を研究する会、囲碁を通じて福祉に寄与しようという会、さらには学校、地域、会社等で囲碁を楽しもうとする小碁会まで数

えれば、まさに無数の囲碁関連団体が存在しているといっても過言ではないでしょう。

それぞれの目的を持ってそれぞれに活発な活動をおこなっていると思われませんが、その目的と全碁協の目的との共通項を見出し、協力し合うことができなにか、あるいはその活動に全碁協が手を貸すことができるか。今後は、そうしたことも大きなテーマとなっていくにちがいがありません。

これまでの囲碁の指導法、囲碁への接しかたは、どうすれば強くなるか、に集中していたように思われます。確かに、強くなれば楽しみもそれなりに増大するでしょう。しかし、強くなるために苦しむのはプロの発想で、一般のアマは楽しみながら強くなりたいと考えているはずで、盤上の勝負もさることながら、盤上に人生の豊かさをより求めるのが、長い歴史に培われた「日本の碁」であり、ゲーム性をどこまでも追及しようという中国や韓国の碁との違いなのです。

また、プロの碁とアマの碁はちがいます。一流棋士による国内棋戦や国際棋戦の結果は一般アマの一つの関心事ですが、しかしその棋譜はあくまでも観賞用のものでしょう。一手一手にある種の感動を覚えたとしても、深い意味はごくごく詳細な解説がなければ理解できません。対局者と解説者の視点がずれている場合も少なくないでしょう。

アマがプロの碁を見るときは、絵画鑑賞に似ています。作者の意図よりも、見る者の琴線に触れるものがあるかどうかの方がなによりも大事なのです。

囲碁への接しかた見かたがプロとアマとはちがいますから、アマの楽しみかた強くなりかたをプロが教えるのはごくむずかしい。やはりアマはアマの視点で囲碁の魅力にアプローチする必要がある、多くのアマの団体はそのために存在しているのでしょう。

さまざまな面でさまざまな活動を続けている多くの団体と、囲碁を人生の糧とする目的を持って

どのように関係していくか。これからそれらの団体と積極的に連絡をとり、そして全碁協との共通項を探っていくかなければならないと考えています。

## 編集後記

本紙第2号を7月14日の正会員総会に間に合わせようと、編集のアマは四苦八苦。それでもなんとか責任を果たしたようだ。改めて、前編集人塩崎氏の大変さが身に浸みている。

次号からはもう少し余裕を持ちたいと考えているが、印刷期間を2週間ほど要するのでいつもぎりぎりになりそうだ。（相場一宏）

## 『日本の碁』

### 第2号

発行人・菊池 康郎  
 編集人・相場 一宏  
 平成二十六年七月十四日  
 東京都新宿区歌舞伎町一―二四―二  
 西武ビル六F  
 全日本碁協会  
 〇三（三三三三） 八七五五